



岐阜県の森林・林業

No.876

2026 September

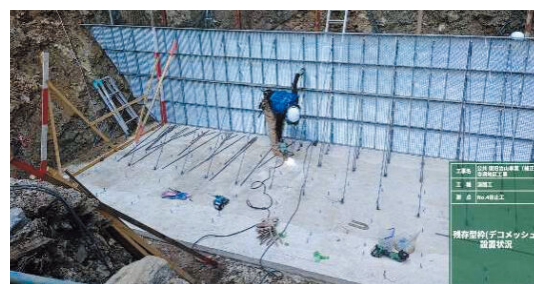
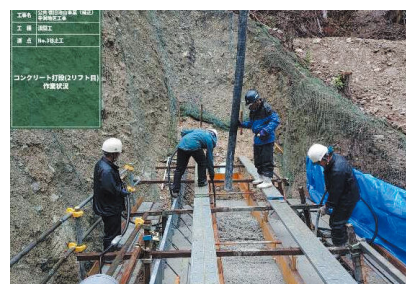
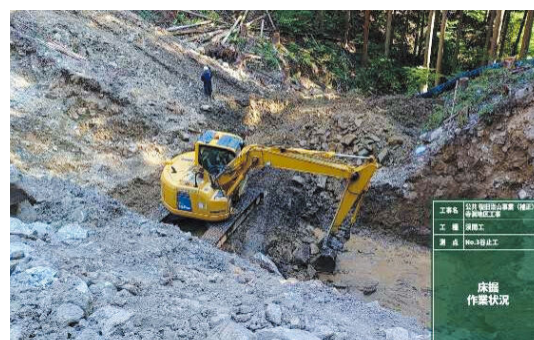
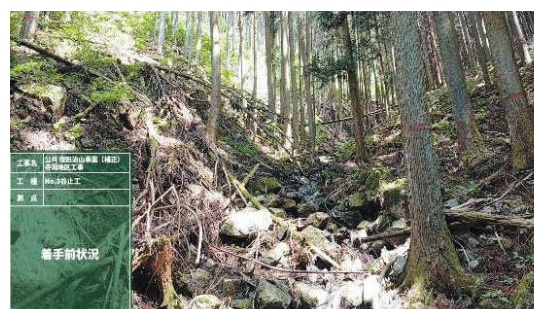
FREE

ご自由にお持ちください。



森のたより

県民の安全・安心を築く！
(治山事業)



開催日	行事名等	内 容 等	場 所
			申込(問合せ)先/TEL
10月17日(土)	第5回狩猟免許試験(わな)	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間：9:30～17:00 ●申込：9月11日～9月25日 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	飛騨総合庁舎 各地域を所管する県事務所等、または自然環境課 TEL：058-272-8231



今月の表紙



写真は、令和8年度治山林道工事コンクールの治山工事部門の最優秀作品。復旧現場での技術者の不断努力の積み重ねが県民の安全・安心を支えています。9月は防災月間。災害への備えを今一度見直す機会としましょう。

目次 Contents

イベントカレンダー(一般向け).....	2
「第50回東海地区みどりの少年団(隊サマージャンボリー)」を開催しました.....	3
ぎふの木使います!.....	4
岐阜県内における令和8年(7月末速報値)の労働災害発生状況及び全国労働衛生週間.....	5
林道の法面における獣害対策について.....	6
(シカ)侵入防止金属柵工法の検証.....	8
(公社)岐阜県山林協会 令和8年度定時総会開催.....	10
「ぎふ森のある暮らし」のお便り.....	11
山の歳時記253 森の水と硬度.....	12
ぎふ木遊館通信.....	13
morinosプログラム紹介!!.....	14
シリーズ「森林・環境税で、緑豊かな清流の国ぎふづくり」(5).....	15
木の香るぎふの施設(160).....	16
相生公民館(郡上市公民館 地区館).....	17
森林と人を活かす知恵(164).....	18
あと十年もしたら、こんな話するもんもおらん.....	20
研究コーナー.....	21
下層植生タイプに基づくヒノキ人工林の生態的管理を考える(1).....	22
普及コーナー.....	23
多雪地域でニホンシカから植栽木を守る必要最小限の対策を模索中.....	24
私、この現場の担当です!.....	25
回顧 あの日、あの時.....	26
イベントカレンダー(林業者向け).....	27
市況.....	28

「第50回東海地区みどりの少年団(隊) サマージャンボリー」を開催しました

8月5日、6日の2日間、東海三県のみどりの少年団員27名が一堂に集い、「第50回東海地区みどりの少年団(隊) サマージャンボリー」を、奈良県宇陀郡曽爾村の「国立曽爾青少年自然の家」で開催しました。

今回は、7年ぶりとなる宿泊形式で、1泊2日の日程で開催しました。

1日目は、午後から開会式を行い、その後、参加者は4つのグループに分かれて活動プログラムに取り組みました。

まず、アイスブレイクで初対面の団員同士の緊張を和らげた後、「カードゲーム」、「森の中で元気がない場所で暗きよやしがらを使った環境整備」、「森の土のボーリング調査と間伐材丸太からコースターづくり」「森林散策とどんぐりの木のコケ玉づくり」の4つのプログラムに分かれ、それぞれ屋外や屋内で活動しました。

また、夜にはキャンプファイヤーを行い、交流を深めるゲームなどを楽しみました。団員同士も次第に打ち解け、仲を深めることができました。

2日目は、団員全員でプレイホールにて「木のスプーンづくり」に取り組みました。

まず、薪をスプーンの持ち手になるようさらに細く割り、形を整えながら、やすりを使って丁寧に磨いていきました。最後にスプーンの金属部分を取り付け、一人ひとりが自分だけの木のスプーンを完成させました。

思い通りの形になるまで何度も削ったり磨いたりしながら、団員たちは時間を忘れるほど夢中になって制作に取り組んでいました。

最後に、団員から2日間の感想を発表し、閉会式を行って解散となりました。「もう少しここにいたい」という団員もあり、今回のサマージャンボリーを通して団員同士の交流も深まり、夏休みの良い思い出になったことと思います。

岐阜県からは、海津市みどりの少年団の7名が参加しました。

今回の開催にあたり、引率者、カウンセラー、三重県の職員、国立曽爾青少年自然の家、愛知県・三重県の緑化推進委員会をはじめ、関係者の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

来年は、岐阜県関市での開催を予定しています。県内からも、より多くのみどりの少年団の皆さんに参加していただけることを期待しています。

みどりの少年団
勢ぞろい



集合写真

木や森を
観察しよう



森の散策

こけをれく
できるかな



こけ玉づくり

点火セレモニー



キャンプファイヤー

うまく
割れるかな



木のスプーンづくり

やすりをかけて
仕上げ



海津市みどりの少年団とカウンセラーのみなさん



公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 田中 敏隆



“ぎふの木”使います!

— 岐阜県木の国・山の国県産材利用促進協定締結事業者のご紹介 —



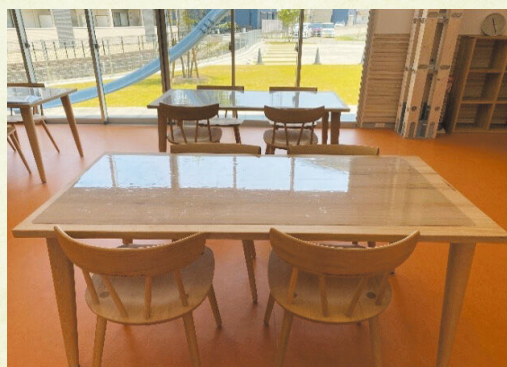
県では「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、事業者と協定を締結し、県産材の利用を促進する構想の実現に向けて連携して取り組むことで、脱炭素社会の実現や循環型社会の形成、地域経済の活性化を目指しています。

これまでに42事業者の皆様と協定を締結しました。順次、協定締結事業者の取り組みを紹介します。

社会福祉法人保城福祉会

<今までの取り組み>

社会福祉法人保城福祉会では、認定こども園「保城さくらんぼこども園」を運営し、こどもたちが安心して過ごせる環境づくりに取り組んできました。その一環として、園舎に隣接する「保城さくらんぼこども園遊戯棟」を整備し、岐阜県産材を活用した現し梁や柱を採用しています。木のぬくもりや香りを感じられる空間は、園児や保護者からも好評で、日々の遊びや活動の場として活用されています。また、法人の会議や交流の場としても利用し、県産材の魅力を感じられる施設づくりを進めてきました。



岐阜県産材を使用した椅子・テーブル

<今後の取り組み>

令和8年8月から放課後等デイサービス事業を開始しました。認定こども園の運営で培った経験を生かし、こども一人ひとりの成長や個性に寄り添いながら、安全・安心に過ごせる居場所づくりに取り組みます。また、多様な遊びや体験活動を通じて、こどもたちの自己肯定感や社会性を育む支援を行っていきます。今後も施設整備や備品更新の際には岐阜県産材を活用し、木のぬくもりを感じられる環境づくりを進めていきます。



木のぬくもりを感じる遊戯棟の階段

<事業者概要>

○所在地

兵庫県姫路市保城184-1

○主な業務内容

認定こども園の運営、
放課後等デイサービス事業

○ホームページURL

<https://www.ans.co.jp/n/houshirosakuranbo/>



現し梁や柱が特徴の遊戯棟内部



各協定締結者には、県産材の活用について積極的な普及啓発に努めていただきます。



岐阜県内における令和8年（7月末速報値）の労働災害発生状況及び全国労働衛生週間

【労働災害発生状況】

岐阜県内で令和8年（7月末速報値）に発生した休業4日以上の労働災害による全産業の死傷者数（新型コロナウイルス感染症によるものを除く）は、1200人と前年同時期に比べて54人（4.7%）増加しています。死亡者数は2人で前年同時期に比べ1人減少しています。

主な業種別では、製造業が369人で前年同時期に比べ32人（5.6%）減少、建設業が104人で前年同時期に比べ8人（7.1%）の減少、運送業が139人で前年同時期に比べ43人（44.8%）の増加、林業が23人で前年同時期に比べ7人（23.3%）の減少、商業等の第三次産業541人で前年同時期に比べ49人（10.0%）の増加となっています。運送業の増加と並び商業等の第三次産業における労働災害の増加傾向が続いています。

【林業における労働災害】

林業における労働災害の死傷者数は、令和元年までは50人を超えていましたが、令和2年以降は40人台で増減を繰り返しており、近年はほぼ横ばい状態です。

令和8年（7月末速報値）の死傷者23人のうち、事故の型別では、飛来・落下が7人（30.4%）と最も多く、転倒が5人、激突されが5人とこの3つの事故の型で約7割を占めています。年齢別では、40歳代と50歳代が7人、60歳以上が5人、20歳代以下が4人となっています。起因物別では「立木等」を起因物とする災害は14人で、伐木作業中の災害が多く発生していることがうかがえます。

【林業における安全対策留意事項】

厚生労働省では近年、林業の安全衛生対策の推進のために、毎年留意事項を取りまとめ、林業関係者に周知を行っています。令和8年度の留意事項（令和8年3月27日付け基安発0327第2号、基安労発03327第1号）は、「第14次労働災害防止計画に基づく対策の推進」、「伐木等作業における安全衛生対策の推進」、「改正労働安全衛生法等の施行」、「帰還困難区域の森林整備における被ばく低減対策等の徹底」、「安全衛生教育の推進」、「チェーンソーによる伐木等作業に係る安全対策講習会への参加勧奨につい

て」、「関係行政機関の連携の強化」、「関係行政機関と林業・木材製造業労働災害防止協会等との連携の強化」、「発注者における取組」の9項目となります。

伐木等作業に係る安全対策講習会、委託事業者は（株）森林環境リライズとなりますので同社のホームページをご覧ください。

林業における労働災害防止のため、伐木作業等に係る労働安全衛生規則に基づく措置や「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」（平成27年）に示されている措置を遵守し、伐木作業中の立入禁止措置、かかり木処理作業における危険防止等の安全対策の徹底をお願いします。

【全国労働衛生週間】

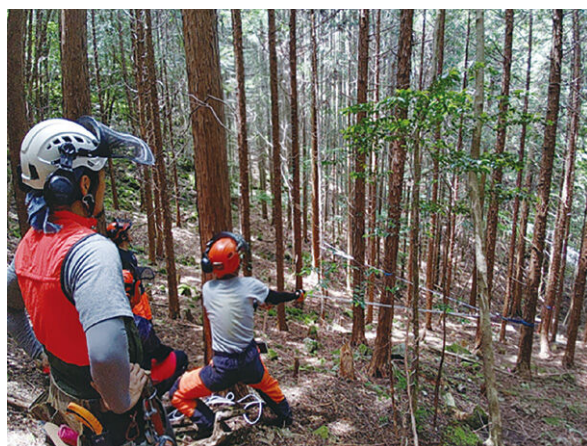
「全国労働衛生週間」は、労働者の健康管理や職場環境の改善など、労働衛生に関する意識の高揚を図るとともに、職場における自主的な衛生活動を促進し、労働者の健康の確保と快適な職場環境の形成を目的として実施されている取組です。昭和25年に開始されて以来、毎年10月1日から7日までを本週間、9月1日から30日までを準備期間として実施しており、今年で第77回を迎えます。

労働者が心身ともに健康で働き続けるためには、定期健康診断の受診や職場環境の改善に加え、各種研修や安全衛生教

育を通じて健康管理や労働衛生に関する知識を深め、健康意識の向上を図ることが重要です。

「全国労働衛生週間」を機に、事業者の実情に応じた研修や職場点検などを積極的に実施し、誰もが健康で安心して働くことができる職場づくりを進めましょう。

【岐阜労働局健康安全課】



（写真は、県内の事業体における「かかり木」処理研修の様子です。かかり木処理は危険性の高い作業です。複数人で確認しながら安全に作業を進めることが重要です。）

林道の法面における獣害対策について (シカ侵入防止金属柵工法の検証)

岐阜農林事務所 村井弘人

概要

近年、農林業において野生動物による被害が深刻化しています。

林道の法面も例外ではなく、緑化した法面においてシカによる食害や踏み荒らしが発生しています。

岐阜農林事務所が開設工事を行っている林道伊自良〜根尾線では、獣害対策として平成29年度から金属柵を用いた工法を採用してきました。

対策を講じた法面の現況調査を行い、今後の対策を検討したので紹介します。

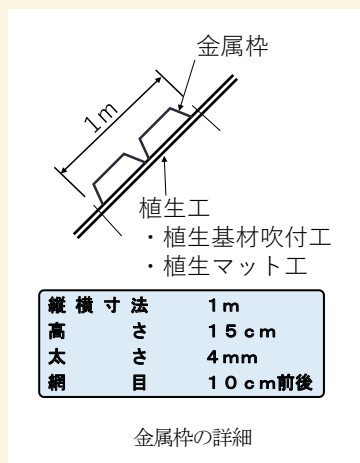
工法

法面保護工には早期緑化を目的として、植生基材吹付工又は植生マット工を選定した。

獣害対策には、シカの侵入防止を目的として、縦横寸法1m、高さ15cm、太さ4mm、網目10cm程度の金属柵を縁状に設置した。



金属柵の設置状況



施工後1年

法面の状況 植生基材吹付工

法面保護工に植生基材吹付工を用いた箇所について

○金属柵

ずれ、変形が発生

○法面

基盤材の流亡、地山に浸食が発生

○植生

施工後1年経過した箇所では、基盤材の流亡、踏み荒らしの無かった箇所については植生が回復していた。

施工後7年経過した箇所では、基盤材の大部分が流亡しており、植生の回復はわずかでした。

法面の状況 植生マット工

法面保護工に植生マット工を用いた箇所について

○金属柵

ずれ、変形が発生

○法面

マットにより保護されている

○植生

施工後2年経過した箇所は、植生が全体的に回復していた。

施工後5年経過した箇所は施工後2年経過した箇所と比較して、植生の回復は部分的でした。



施工後7年

現地状況のまとめ

現地状況をまとめた表を示す。



施工後5年



施工後2年

工法	経過年数	金属枠	法面	植生
金属枠 + 植生基材吹付工	1年	変形・ずれを確認	踏み荒らしにより基盤材が流亡	基盤に含まれる種子により植生が回復
	7年	変形・ずれを確認	基盤材の流亡 地山の露出	植生がほとんど確認出来ない
金属枠 + 植生マット工	2年	健全	植生により保護	基盤材に含まれる種子により植生が回復
	4年	変形・ずれを確認	マットにより保護	全体的に回復。在来植生の侵入
	5年	変形・ずれを確認	マットにより保護	まばらに回復 在来植生の侵入

○金属枠

金属枠を植生マット工とあわせて施工した箇所の施工後2年の箇所のみが健全な状態を保っていた。

その他の箇所は変形・ずれが確認された。

○法面

植生基材吹付工の施工箇所では、踏み荒らしや積雪による影響を受け、時間の経過とともに、基盤材が流亡し、地山の浸食が確認された。

植生マット工の施工箇所は、マットにより地山が保護されているため法面の浸食は確認されなかった。

○植生

施工から1年～2年経過した箇所では、

は、植生基材吹付工の施工箇所、植生マット工の施工箇所ともに、基盤材に含まれる種子により植生が回復していることが確認された。

施工から4年以上経過した箇所については、植生基材吹付工は、時間の経過とともに、植生は衰退しており、合わせて基盤材の流亡により植生の回復が困難な状況となっていた。

植生マット工についても、時間の経過とともに、植生が衰退していたが、在来植生の侵入が確認できた箇所もあった。

今後の獣害対策工法

○法面保護工

植生基材吹付工は植生基盤の流亡が確認され、長期的に植生の回復を期待することは困難と考えた。

植生マット工は食害の発生は確認されたが、踏み荒らしや積雪の影響は植生基材吹付工に比べると少なかった。

そのため、植生マット工の採用を続けることとした。

○獣害対策

シカの侵入を完全に防止することはできず、食害・踏み荒らしが発生した。そのため、別の工法を検討することとした。

○今後の獣害対策工法

金属枠による獣害対策工法を見直

し、シカ食害対策用金網を用いることとした。

シカ食害対策用金網の特徴は、金網に3cmの厚みがあること、網目の大きさが4cm四方の網目となっていることです。

期待される効果としては、金網に3cmの厚みがあることにより、食害にあった場合でも、3cm以上の草丈を確保することが出来るため、成長点の保護が可能であること。

また、網目の大きさが4cm四方と鹿の足より小さいため植生や植生基盤が直接踏まれることがないこと。

植生マットを金網で固定するため、踏み荒らしや積雪による基盤材の流亡を抑制出来ることです。

新たな取り組み

現地のところどころにカヤが自生しており、わずかではあるが林道法面への侵入を確認することが出来た。

そのため、在来の植生の林道法面への侵入を促進することを考えた。

カヤ株を法面の上部に植えることで、種子の供給をおこなう計画です。

令和8年の春に施工予定のため、経過観察を続けていきます。

● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 058-214-7406

岐阜農林事務所まで

（公社）岐阜県山林協会

令和八年度定時総会開催

去る八月六日、岐阜市のホテルにおいて令和八年度定時総会を開催しました。



山内 会長

の森林地域への増額の3点を重点課題とし、国等への要望活動を強化していく。折しも今年は御嶽山の国定公園指定や「山の日」全国大会開催など、山の価値を再認識する機運が高まっており、森林教育や広報活動を強化したい。森林を守り育て、県民の安全と豊かな地域社会を未来に繋げるため、引き続き協会活動への理解と協力をお願いする。」と挨拶がありました。



長谷川 県林政部長

開会にあたり、山内会長から「近年、豪雨や地震など自然災害が激甚化し、また、地球温暖化の進行に伴う集中豪雨の増加や台風の大規模化も指摘されており、山地災害の危険性も含め、災害リスクは確実に高まっている。一方で森林の多面的機能への社会的要請は強くなっており、必要な治山対策や森林整備を計画的に実施できるよう、特に①安定した予算確保、②人件費・資材高騰への対応と歩掛見直し、③森林環境譲与税

続いて来賓の皆様からご祝辞を賜り、最初に知事代理の長谷川県林政部長からは、「新たな施策として針広混交林誘導のためのモデル事業、中

堅技術者をターゲットとした労働安全対策、住宅リノベーションへの助成などに取り組む。また第五期の森林づくり基本計画の策定に着手しており、持続可能な森林・林業の実現に向け、皆さんの助言を賜りながら進める。最後に協会の益々の発展と参集の皆様のご健勝を祈念する。」とお祝の言葉をいただきました。



藤田 林野庁課長補佐

また、林野庁長官代理の治山課の藤田課長補佐からは、「6月に、百年つづく『森の国・木の街』を副題とする新たな基本計画が閣議決定された。関係者が未来に希望をもって新たな取組みに挑戦できるよう施策の展開を図る。」とご挨拶をいただき、このほか県議会松岡議長、日本治山治水協会の中山部長からもご祝辞を賜りました。

議事では、令和七年度事業報告と収支決算、令和八年度の会費の額な

どの二つの議案が原案どおり承認された後、今年度は役員改選の年に当たするため、第三号議案で新役員の選任を諮り、十八名が選任されました。

令和8年度 役員一覧

会長 山内 登（下呂市長）

副会長 藤原 勉（本巣市長）

可児 登（可茂森林組合長）
高井 峰好 ※専務理事を兼務

理事 林 宏優（山県市長）

西脇 康世（関ヶ原町長）

岡部 栄一（揖斐川町長）

山下 清司（関市長）

山川 弘保（郡上市長）

佐伯 正貴（白川町長）

小栗 仁志（中津川市長）

都竹 淳也（飛騨市長）

成原 茂（白川村長）

上川 渡福雄（飛騨市森林組合長）

田中 敏隆（公益社団法人岐阜県緑化推進委員会専務理事）

監事 高木 貴行（多治見市長）

川邊 武（中津川市森林組合長）

神原 和義（岐阜県森林組合連合会常務理事）

また、総会に先立ち令和8年度治山林道工事コンクール最優秀・優秀を受賞された八名に賞状と副賞の授与が行われました。



知事表彰（山県市長）



受賞者全員の記念撮影

なお、各部門の最優秀表彰者は（一社）日本治山治水協会・日本林道協会主催の全国治山林道工事コンクールに岐阜県代表として推薦します。

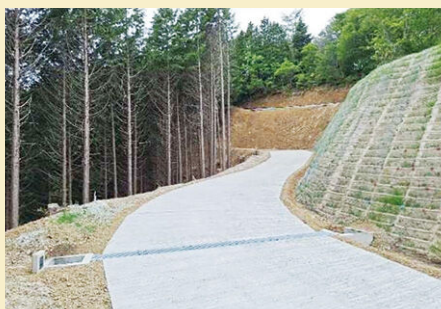
令和8年度治山林道工事コンクール最優秀工事等のご紹介



（林道維持管理の部 - 山県市）



（治山工事の部 - 金子工業株式会社）



（林道工事の部 - 加藤建設株式会社）



（林道木材使用工事の部 - 恵那農林事務所）

■受賞者一覧

部 門	表彰区分	工事名（路線名）	受 賞 者 名
林道維持管理	最優秀	林道椿野～はじかみ線	山県市
	優秀	林道傍仲線	恵那市
治山工事	最優秀	公共復旧治山工事（補正） 寺洞地区工事	金子工業株式会社 - 下呂市
	優秀	公共復旧治山事業（ゼロ国） 越田土	株式会社所組 - 本巣市
	優秀	緊急予防治山事業 長洞谷地区工事（補）	所産業株式会社 - 揖斐川町
	入選	予防治山工事 西山地区工事	株式会社新晃 - 垂井町
	入選	公共予防治山事業 黒ノ田地区工事外2	株式会社西尾建設 - 瑞浪市
	入選	公共復旧治山事業 広野（出口谷）地区工事	株式会社加地工務店 - 中津川市
林道工事	最優秀	揖指第 0602 号 農山漁村地域整備推進交付金事業 林業専用道倉之谷線開設工事	加藤建設株式会社 - 揖斐川町
	優秀	地方創生道整備推進交付金事業 林道二間手～水沢上線（4工区）開設工事	オクド株式会社 - 郡上市
	入選	令和6年度 公共 地方創生道整備推進交付金事業 森林基幹道 三森山（5-2）線開設工事	株式会社矢野土木 - 恵那市
林道木材使用工事	最優秀	令和7年度 山村強靱化林道整備事業 森林基幹道 尾城山（5）-2線開設工事	恵那農林事務所森林保全課



令和5年1月に設立された「ぎふ森のある暮らし推進協議会」から「遊び」「学び」「健康」などに森林を活用する「森林サービス産業」に取り組む会員の活動をご紹介します！

第9回 一般社団法人KASANE & NENO自然体験合同会社



一般社団法人 KASANE

●活動内容

私たちは前身である任意団体musubi(2017年～)の思いを引き継ぎ、“森も人も健康を取り戻す”取り組みを、決意をもって進めていきたいと考え2025年に法人化した団体です。

『森と人の命を結び未来にかさねる』という理念を掲げ、木のもののづくりや、日本文化を中心に伝えることを通して森林・林業・木材産業の担い手育成や森づくりに寄与したいと考えています。

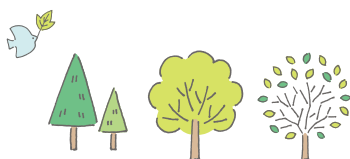
●推しポイント

これまで「質の高い教育」を目指して取り組んできましたが、コロナ禍を経て「福祉」の視点も加わりました。生きた知恵を持つ高齢者と共に子どもたちに引き継ぐべく、木育を手段とした地域づくり、人づくりに取り組んでいます。



●KASANEのリンク先はこちら

URL : <http://musubikasaneru.com/home/>



NENO 自然体験合同会社

●活動内容

「人と自然を仲良くする、そのお手伝いをしています」と掲げ、自然体験の企画、コーディネート、インストラクターを主な業務にし、恵那市と中津川市の境にある根の上高原をホームゲレンデとしながら東濃圏域で活動しています。

具体的には、季節に応じたネイチャリングツアーやワークショップ、小学生向けキャンプや自然体験学校、林間学校の受け入れ、企業と協働したフィールドの活用、木育の普及などを行っています。



●推しポイント

素朴な仕掛けで、なんでもない野山が楽しい学び場となるように工夫しています。楽しいだけで終わらない自然と一緒に過ごした経験を持って帰ってもらえることを目指しています。



●NENO自然体験合同会社のリンク先はこちら

URL : <https://www.nenoway.com/>

ぎふ森のある暮らし推進協議会では、県内で「森林サービス産業」に取り組んでいる/取り組もうとしている方を会員として募集しております。詳しくは下記までお問い合わせください。

TEL:058-272-8472 メールアドレス:c11513@pref.gifu.lg.jp

ぎふ森のある暮らし
推進協議会について



YAMA NO SAIJIKI
253
山の歳時記
森の水と硬度
文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事
川尻 秀樹

林業関係者と話をする中で、「最近は小学4年生の社会科で飲料水の仕組みについて学び、その中で水を蓄える役割を持つ水源林として、森林について学ばふんですよ」と小学校での学びについて話をしました。

森に降る雨は樹木の葉や幹を伝わり流れたり、林床に直接降った雨が森林の腐植層を透過すること、酸性化したりアルカリ化して地下に移行します。森で不純物を濾過した水は、地下で様々な成分

を溶かし込むことで味が変わり、特に火山地帯で石灰岩（炭酸カルシウム等）の多い地域では、地下水の「硬度」が高くなります。

ミネラルウォーターで有名な欧州の硬度は、フランスだと1000ml中の CaCO_3 （炭酸カルシウム）濃度で、アメリカでは1,000ml中の CaCO_3 濃度で、ドイツでは100ml中の CaCO_3 （酸化カルシウム）濃度で表します。

日本ではアメリカ硬度とドイツ硬度の両方が使われ、世界保健機構（WHO）のガイドラインでは「軟水」は0～60mg/l、「硬水」は120～180mg/lとなっています。

日本は軟水が主流で、地域的には北海道や秋田、宮城、新潟、愛知、島根などは極めて軟水で、東京や神奈川、群馬、滋賀、福岡、熊本、千葉、埼玉、沖縄は比較的に硬度が高い地方となっています。

日本の水道水は平均硬度が30～60とされ、全体の3割が硬度60

以上、1割弱が硬度100以上となっています。また北海道や東北地方など豊富な雪解け水がある地域は必然的に硬度が低くなり、関東ローム層や九州の火山地帯、珊瑚礁の多い沖縄などでは硬度が高くなる傾向があります。

欧米は石灰岩地質が多く、河川全長が長く、加えて地下水を水源にしていることが多いため、硬度200～500という水道水も珍しくありません。軟水に慣れている日本人が欧州で水道水を直接飲んでお腹を壊すこともあります。また欧州の水道水に含まれるカルシウムやマグネシウムが、石鹸の脂肪酸と結合して沈殿するため石鹸の泡立ちが悪く、日本の軟水対応石鹸を持ち込んでも泡立ちが悪いのも当然です。

余談ですが、石鹸は天然油脂と水酸化ナトリウム（または水酸

化カリウム）とで加水分解して作る脂肪酸ナトリウム（または脂肪酸カリウム）が主成分です。

従来は石油から作っていた台所用合成洗剤も、近年は植物油100%配合（トウモロコシやヤシ油）と書かれています。合成洗剤には変わりありません。例えばヤシ油が原料ならば、熱帯資源の多くを使い、さらにヤシ園を作るために生態系に負担をかけていることになるとの指摘もあります。



硬度18の超軟水「高賀の森水」

ぎふ木遊館通信

<大人のおはなしおもちゃ劇場を開催しました!>

6月20日(土)に「大人のおはなしおもちゃ劇場」を開催しました。

このプログラムは、18歳以上限定の大人のための木育プログラムです。夜の木育ひろばの空間でじっくり木のおもちゃに触れ、遊ぶ楽しさや心の栄養を感じる時間を体験していただきました。

ぎふ木遊館では、子どもだけでなく、幅広い世代にも利用してもらえるよう、今後も様々なイベントやプログラムを通して、木と触れ合う楽しさや木育の魅力をお届けしていきます!



<「青山中学校」×「ぎふ木遊館」コラボ企画を実施しました!>



木育ひろば体験

7月10日(金)に岐阜市立青山中学校とぎふ木遊館とのコラボ企画「森と人をつなぐ私たちのアイデア~その仕事、AIじゃなくて中学生に任せてプロジェクト~」を開催しました。

活動の初日は、青山中学校2年生の生徒が、本県の森林や林業の現状と「ぎふ木育」の取組について学習し、全身で木を感じられる木のおもちゃによる遊びや、スタッフとして働く職場体験を行いました。

今後は、今回の体験をふまえ、同校生徒と当館職員とのグループワークなどにより、これからの「ぎふ木育」やぎふ木遊館の取組について一緒に考えていきます。



さとやまさん体験

【今後のスケジュール】

○意見交換会(9月10日(木))

当館職員を交え、グループごとに「ぎふ木育」やぎふ木遊館の取組について意見交換

○発表会(10月16日(金))

「ぎふ木育」やぎふ木遊館の取組について、グループごとに発表、提案

【同校生徒と当館職員との協働について】

期間中は、同校生徒が校内・自主学習として調査や情報収集などを行い、提案に向けた準備を進めます。その過程では、校内学習に当館職員が参加し意見交換を行ったり、来館による調査や職員への聞き取りなどを行いながら、共に考えていきます。



ぎふ木遊館公式Instagramのご紹介

ぎふ木遊館で行われる木育プログラムやイベント情報、館内の様子や木のおもちゃの話等を公式Instagramにて発信しています!

まだ来館したことない方も当館の様子がわかりますので、ぜひチェックして、フォローをお願いします。



GIFUMOKUYUKAN0717



やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（morinos）は、身近な自然の中で安全に活動するために必要な知識と判断力を育むことを大切に、体験と学びを往復するプログラムを実施しています。今回は野外における対応力を学ぶプログラムについて紹介します！

<救急救命医から学ぶファーストエイド講座>

今回のプログラムでは、加古川医療センター救急科部長であり、ドクターヘリ・ドクターカーで数多くの緊急現場に携わってこられた伊藤岳先生を講師にお迎えし、『救急救命医から学ぶファーストエイド講座』を開催しました。

本講座では、「現場で体調の異変がある人に出会ったとき、どのように評価し、判断し、行動するか」という実践的なテーマを軸に、野外活動や医療資源の限られた環境で求められるファーストエイドの考え方を学びました。

講義は、「帰り道、具合が悪そうな人に出会ったときに行動できる」という明確な目標からスタートし、参加者一人ひとりが自分の事として考える内容となりました。

「様子を見る」という判断自体がリスク要因になり得るといった観点が示され、頭痛や胸の違和感、冷や汗など、一見軽微に思える症状や、一時的に回復するケースほど、重大な疾患のサインの可能性があるという指摘は、多くの参加者にとって新たな気づきとなりました。「なんとなく大丈夫」という感覚に頼るのではなく、客観的に異常を捉え、早期に行動することの重要性が強調されました。



講義中の伊藤岳先生



頸動脈で脈を診る

また、命に関わるリスクを優先順位で評価する「ABCDEアプローチ（気道・呼吸・循環・意識・環境）」について具体的に学びました。呼吸数や脈拍の変化といったバイタルサインの見方や、異常の見極め、さらには圧迫止血の実践的な方法など、現場で活用できる知識が数多く紹介され、参加者からは高い関心が寄せられました。

さらに、山岳遭難の実態や、外傷だけでなく心疾患や脳疾患が事故の引き金となるケースについても解説があり、異常の予兆に気づくという視点の大切さが共有されました。



頭部の止血を実演（かなり強く!）

参加者からは、「これまで考えたことのない視点を学べた」「現場での判断の重要性を強く実感した」「継続的に学び続けたい」といった声があがり、充実した学びの機会となりました。

今回の講座を通して、現場で求められるのは、単なる知識や技術だけではなく、「異常を認知し、適切な判断を下し、行動につなげる力」であるということが改めて認識されました。今後もこのような学びの機会を継続し、安全で質の高い活動の実現に向けて取り組んでいきます。

morinosHPでは、こうした日常風景からプログラムまで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

YouTube 検索「morinosチャンネル」

開館時間 10:00～16:00

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取り組みを行っています。こうした取り組みの内容について連載で紹介します。

5

森林空間活用促進事業 ～森林空間の活用を図るための施設の設置・改修～

■事業目的

近年、森林空間を健康、観光、教育等の多様な分野で活用する「森林サービス産業」が注目されつつあります。一方で、森林空間においては利用者のニーズに対応した施設整備の現状や利便性が課題となっています。

本事業では、森林空間における新たな施設の整備や既存施設の改修等を支援することで、休憩施設や歩道等の整備を進め、県民の森林空間の利活用を促進することを目的としています。

■事業概要

- 森林空間を健康、観光、教育など多様な分野で活用し、森林の新たな価値を創造するため、歩道や休憩施設等の整備を支援します。

○補助対象：市町村

○補助上限：【施設整備タイプ（新設）】上限5,000千円／施設（事業の実施は1回／施設 限り）

【既存施設改修タイプ（改修）】上限3,000千円／施設（事業の実施は1回／施設 限り）

■取組状況



原火谷遊歩道における展望デッキ設置等（坂祝町）

令和4年度から令和7年度までの間に、本事業の支援を活用し、県内38か所の森林空間施設が新設または改修されました。事業実施後のアンケートでは、「あまり変わらない」と回答した市町村もあった一方で、「地域の森林に入る機会が増えた」と回答した市町村も見られました。また、多くの市町村から、「地域の森林空間がより利用しやすくなった」「今後は地域全体で森林空間を保全していきたい」といった回答が寄せられ、本事業が森林空間の利活用や保全意識の向上に寄与していることがうかがえました。

令和8年度においても、本事業の支援により、6か所の森林空間施設で新設または改修が進められています。森林浴やトレッキングなどを通じて、より多くの県民の皆様は森林空間を身近に感じていただき、その魅力に触れていただけることを期待しています。



施設全景

施設の概要

事業年度	令和7年度
事業主体	相生公民館
構造 延床面積	鉄骨造 2階建 922㎡
施設用途	相生公民館 コミュニティルーム
木材使用量 使用樹種	県産材使用量 2.12㎡(木質化面積131㎡) 主な使用樹種 ヒノキ
全体事業費	1,337,248円
助成額	655,000円 (ぎふ県産材利用促進施設等整備事業)
設計者	カネサダ番匠
施工業者	カネサダ番匠
工期	令和7年12月5日～令和8年2月28日

公民館利用の様子



広葉樹の木目や
色味を楽しめる
テーブル

施設の経緯

相生公民館は、郡上市公民館の地区館として位置づけられる公共施設で、地域住民の生涯学習の推進を目的に、各種教室の運営、クラブ活動への支援、盆踊り大会や文化祭などの地域行事を実施しています。令和7年度には相生祭(芸能祭・文化展)の第40回開催を記念して、館内の一室を内装木質化、また、木製家具等の備品を導入し、地区住民の誰もが気軽に集える空間の整備を行いました。



<施工前>



<施工後>

ここに注目!!

内装木質化による改修に合わせて、室内のテーブルや椅子、壁面の収納棚を一体的に整備しました。利用者からの声をもとに、温かみのある空間デザインにこだわり、公共施設とは思えない仕上がりとなっています。

利用者の様子

利用者からは「岐阜県産材なんだ!」「木の匂いが落ち着くね」「いろんな木の模様があるんだ」などの声が寄せられ、施設の利活用への機運を高める改修を行うことができました。

問い合わせ先

相生公民館

TEL:0575-63-2911



森林と人を 活かす知恵 164

あと十年もしたら、こんな話するもんもおらん

― 竹屋だった古民家で考えたこと。

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 谷口 吾郎



「あと十年もしたら、こんな話するもんも、おらんようになるわなあ。」
家の裏山にある稲荷神社の小さなお祭りで、八十歳を超える地域の方が笑いながらそう話してくれた。
その方によれば、このあたり一帯は

昔、よく手入れされた竹林が広がっていたという。

「それこそ、お宅のところが竹屋さんやったからね。」

私は美濃市に築百年を超える町家を譲り受け、改修して暮らし始めた。この家がかつて竹屋を営み、地域の「花みこし」で使う竹材も担っていたこと、その前は木材も扱い、さらにさかのぼれば長良川で木材や竹を運ぶ船頭だったことも、地域で出会った方々の会話の中で少しずつ教えていただいた。

一軒の家の歴史は、気がつけば美濃町の歴史そのものだった。

こうした話のほとんどが資料には残っていない。竹屋という仕事が地域の風景をどうつくり、人々がどんな暮らしを営んできたのか。それらは地域で生きてきた人の記憶とその面影の中にだけ残っている。

だからこそ、「あと十年もしたら忘れられる」という言葉が重く響いた。私は古い町並みや古民家が好きだ。また地域のお年寄りの話を聞く時間が好きで、許されるならずっと聞きたい。

話を聞いていると、一つの家が町へ、

町が川へ、川が山へとつながり、それまで点だったものが一本の線になっていく。そのつながり直されていく物語に立ち会えることが、たまらなく面白い。

一方で、私は文章を書くことがあまり得意ではない。

だから、貴重なお話を聞いても、その場の感動だけを持ち帰ってしまうことが少なくなかった。何度も「書き残しておけばよかった」と後悔してきた。

それでも、だからといって諦めたことはない。最近A1による文字起こしなど、話し言葉をそのまま記録できる技術が身近になってきた。文章を書くことが得意でなくても、地域の方々の語りを未来へ手渡すことはできるかもしれない。新しい技術の力も借りながら、この町に残る物語を一つでも多く書き留めていきたいと思います。

森林文化という点、木材利用や林業技術を思い浮かべることが多い。しかし古民家で暮らし始めた私は、その見方が少し変わった。

竹屋という仕事が竹林を守り、船頭が山の木を川で運び、人々の暮らしが町並みを育んできた。その営みは建物



だけでなく、人の記憶や語りの中にも息づいている。

もちろん、古民家をそのまま残せばよいとは思わない。我が家も耐震補強や断熱改修を施し、現代の暮らしに合せて手を入れた。

しかし、建物を新しくすること、その土地に積み重ねられた物語まで失うことは違う。

建物や森は残すことができる。けれど、人の語りは、耳を澄ませる人がいなければ消えてしまう。

森林文化とは、木や建物だけではなく、そこに生きてきた人々の営みや記憶、地域に宿る物語を受け渡していくことでもあるのだと、竹屋だった古民家が私に教えてくれた。

下層植生タイプに基づくヒノキ人工林の生態的管理を考える(1)

森林研究所 渡邊 仁志

はじめに

森林の公益機能を十分に発揮させるため、近年、全国で森林配置計画（ゾーニング）が進められています。岐阜県でも、森林を環境保全林と木材生産林に区分し、それぞれの目的に応じた施業を行うことが求められています。しかし、どちらの目的であっても、まずは林内の表土流亡（細土、礫、リターの流出）を抑え、地表面の安定化を図ることが重要だと考えられます。

この表土流亡は、下層植生やリターによる林床被覆によって低減され得ることが知られています。しかし、壮年期以降のヒノキ一斉人工林では、林冠閉鎖と林床の光量不足が進み、下層植生が衰退することで、他樹種に比べて表土流亡が継続して発生することが分かっています。県内人工林の多くをヒノキが占める状況を踏まえると、ヒノキ林を適切に管理する方法の確立は重要な課題です。

そこで、本稿では二号にわたりヒノキ林の下層植生に着目した森林管理の考え方を紹介します。とくに、下層植生の維持・回復に向けて、どのような

施業が有効なのかを、現場で活用できる形で整理します。

下層植生のタイプ分類（ササに注目して）

表土流亡を抑える効果は、下層植生タイプ（下層植生の優占種や植被率）によって大きく異なります。そこではじめにこれまでに明らかになっていた下層植生タイプに、「ササ型」を新たに追加し、各タイプの効果を再評価しました。ササ型とは、本州中部太平洋側の寡雪地域に分布するミヤコザサやスズタケが優占する植生タイプです。このタイプは、これまでに効果の検証や他の植生型との比較が十分に行われておらず、位置づけが明確ではありませんでした。

岐阜県南部のヒノキ林で行った多点調査では、ササ型は、草本型、低木型、貧植生型よりも出現する標高が限定的であり、シダ型より高標高域に分布する傾向が確認されました。また、出現する林分の収量比数は高い傾向にあり、混み合つて過密な林分にもみられました（図1a）。これまでの研究によれば、暖温帯域のように常緑木本や

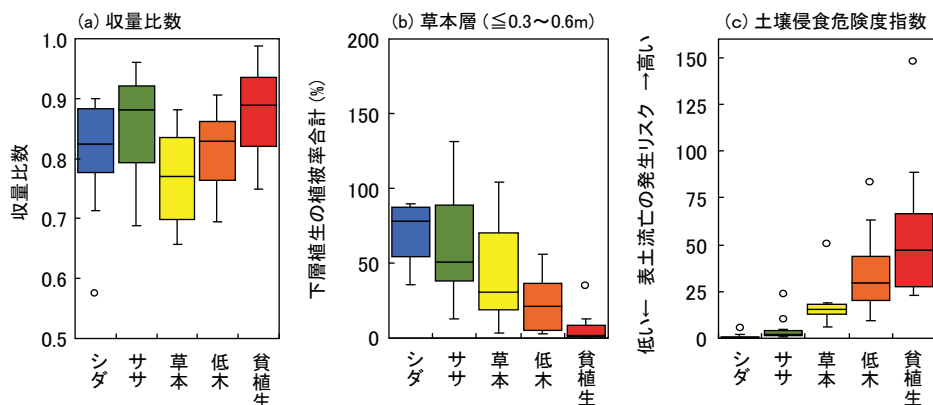


図1 下層植生タイプ別の収量比数 (a)、草本層 (b) の植被率合計、および土壌侵食危険度指数 (c)

シダ型の下層植生タイプが分布しないため、冷温帯域では、光条件が悪化して草本や落葉木本が生育できなくなる、貧植生型しか成立しないといわれていました。しかし、標高約400～1000mという相対的に標高が高

い地域において、林分疎密度が高く光条件がやや悪化した環境下にも、ササが優占する植生タイプが出現し得ることが示されました。

ササ型の特徴をみると、全層の植被率は、草本型や低木型と同程度でしたが（図省略）、地上高60cm未満の草本層に限れば、シダ型と同等に高い傾向がありました（図1b）。ササ型は、葉層とリター層が重層的に地表を覆っているため、表土流亡の抑止効果が高いとされるシダ型と同様に、表土流亡が発生しにくいと推測されます。

これらのことから、表土流亡の発生リスクは、シダ型Ⅱササ型Ⅲ草本型Ⅳ低木型Ⅴ貧植生型の順に高くなりました（図1c）。このことは、ヒノキ林下における表土流亡リスクは一樣ではなく、下層植生タイプによってそのリスクが大きく異なることを示しています。さらに、下層植生を適切に管理すれば、そのリスクが低減できる可能性も示唆されました。したがって、現場の下層植生タイプの正しい把握が、施業方針を検討するうえでの出発点となります。

次号では、これらの結果を踏まえたうえで、下層植生を維持し、表土流亡を防ぐためのヒノキ人工林の管理方法を提案します。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-333-2685

森林研究所まで

多雪地域でニホンジカから植栽木を守る 必要最小限の対策を模索中

岐阜県飛騨農林事務所 林業課 田口正英



〇はじめに

令和5・6年度に森林環境保全直接支援事業の担当となり、主伐・再造林を推進する立場になりました。

その際、某森林組合から「忌避剤だけでは植栽木が食害されてしまうほどニホンジカ（以下、「シカ」という。）が生息しているため、シカ柵または単木防護が必要。積雪があるため、単木防護によるシカ対策を行いたい」との相談があり、補助事業を実施しました。

この補助制度は県の標準単価に對して実質最大95%の補助金を交付する仕組みで、単木防護（生分解性耐雪仕様）の単価は地植え＋植栽（コンテナ苗スギ）の約2倍でした。それを知り、「単木防護の単価が高すぎる」「この単価での再造林は予算を圧迫する」という懸念がありました。

また、この経費のうち地域に還

元される割合はいくらだろうか、コンテナ苗・資材が地域外企業で製造されている現状から、地域内に利益が残る方法はないのかと考えていました。

〇多雪地域でシカから植栽木を守る防護と捕獲の試み

そのような問題意識を持っていたなか、某再造林実施事業者が高山市莊川地域においてカラマツの再造林を行うにあたり、「費用をできる限り抑えた植栽木の防護対策」と「省力・効率的なシカ捕獲対策」を併せて実施したいという相談が寄せられました。

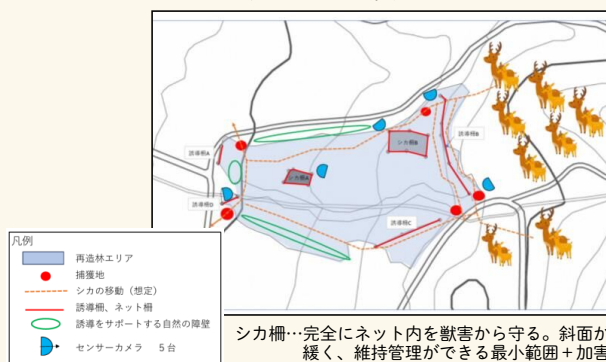
『シカ害防除マニュアル（シカ柵で植栽木をまもる（令和2年3月版）』（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター）によると、積雪深が150cmを超える場合、対策としては忌避剤を選択することになっていますが、シカの生息密度が高い多雪

地域の場合は、忌避剤だけでは食害が発生しているため、効果的な防除方法を模索する必要があると感じていました。その事業者も同様の認識であり、シカ柵や単木防護資材では積雪に伴う維持管理が難しく、過去に隣接地で忌避剤を施工したカラマツも激しい食害を受けていたことから、忌避剤だけでは不十分だと考えていました。

そこで、必要最小限の防護に加え、センサーカメラ等を活用した効率的なシカ捕獲ができないか模索することになりました。

当方から岐阜県森林研究所および岐阜県立森林文化アカデミーへ相談したところ、岐阜県野生動物管理推進センター、岐阜県環境生活部環境生活政策課を紹介していただきました。関係者が現地に集まる機会を調整し、対策を検討した結果、餌づけによる誘引捕獲は避け、忌避剤散布や部分的なシカ柵による「守る対策」に加え、次

現地での展開図面



のことに実施しました。
①誘導柵および林地残材（主伐時の枝葉等）によるシカの移動経路の制限
②センサーカメラを活用したシカの移動経路の把握と効率的な捕獲の推進
この際、「シカの動向を予測した誘導柵を設置すること」、「維持管理が容易な林道等に近い場所に捕獲位置を設定すること」を普及指導員として助言しました。（詳細は以下の図・写真参照）。



林地残材の配置状況

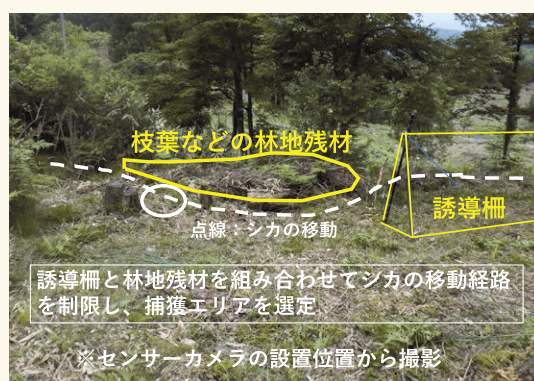


センサーカメラの設置状況

○実施の結果

植栽から2年経過しましたが、植栽木に大きな被害はなく、健全な成長がみられました。部分的なシカ柵についても傾斜がゆるい箇所へ設置したことにより、雪害もなく維持管理も容易でした。大規模なシカ柵を設置し、雪害により高価な維持管理経費が必要になるところを、必要最小限に抑えられたと考えています。

また、誘導柵・林地残材・センサーカメラを活用した捕獲については、地元猟友会の捕獲者と協力し、餌付けなしで6頭のシカが捕



シカ誘導のイメージ

獲されました。センサーカメラの活用により、シカの移動経路を随時把握し、くくり罠と誘導柵を設置・移動を数回することで効率的な捕獲となった可能性がります。積雪の影響により、シカ柵や単木防護が困難な地域において、新たなモデルケースとなることを期待します。

○こんな問題点も

実施した結果、一定の効果が得られましたが、実施する中で次のような問題点も明らかになりました。

その再造林実施事業者は高山市外の業者でした。有害鳥獣を狩猟期以外に捕獲するためには、市町村長から指名・任命される「鳥獣被害対策実施隊員」の協力が不可欠です。本来であれば地元の猟友会へ捕獲を依頼することで解決しますが、当該地域は人口減少や担い手不足に直面しており、さらに林業事業者と地元猟友会との接点がこれまでなかったため、市外の事業者が再造林地で有害捕獲を行う体制づくりは容易ではありませんでした。また、地元猟友会が

ある中、地域外の者が鳥獣捕獲を行うことが実質的に困難であること、さらに市外の鳥獣被害対策実施隊員を受け入れた前例がないなど、市外の林業事業者が有害捕獲に参入することの課題が浮き彫りになりました。

○最後に

この取り組みをさらに普及するため、令和8年度よりシカ捕獲の支援制度が創設されることとなりました。この普及活動の取り組みが、県全体の予算化・制度化につながったことを大変嬉しく思っています。

技術的な指導は経験不足を感じていますが、まずは現地に赴き状況を把握し、事業体の悩みや要望を丁寧に聞き取り、関係機関とその情報を林政部内で共有していくことの重要性を実感しました。

本取り組みにご協力いただいた事業者及び関係機関のみなさまに深く感謝いたします。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0577-133-1111

飛騨農林事務所まで



私、この現場の担当者です！



森林土木の現場で鍛えられながら、日々レベルアップ中の若手県職員のご紹介

所属・職氏名	岐阜農林事務所 林業課 治山林道係 技師 豊永 翔馬
工事名・場所	林道伊自良～根尾線 伊自良工区開設工事 (山県市長滝)
工事内容	山県市長滝から本巣市根尾奥谷をつなぐ伊自良～根尾線の開設工事です。幅員4.6m、施工延長は71m、盛土側には補強土壁工を施工します。
ひとこと	今年度から初めて林道の開設を担当しています。最初に現場を見たときは、こんなところに道ができるのかと思っていましたが、工事が進むにつれ徐々に完成形が見えてきて、工事って凄いな、面白いなど感じています。現場のことはまだまだ知らないことばかりですが、係長をはじめ、現場技術業務の方や施工業者の方々など、多くの方から学びを得て日々業務に励んでいます。



回顧 あの日、あの時

長良川9.12豪雨災害(昭和51年9月)



今回の災害は、昭和34年の伊勢湾台風以来の激甚災害となった。
この災害に対処して、県林政部は、現行の災害復旧制度を最大限に活用して、県民生活の安定と向上を図るため、早期復旧に全力をあげて取り組んでいる。
伊勢湾台風と17号台風の県下にもたらした災害を対比すれば、表-1のとおりである。



50年前の9月、県政史上最大の豪雨災害となった「長良川9.12豪雨災害」が発生。記事では、林地1,317箇所、林道770箇所など、伊勢湾台風を上回る規模の被害があったと紹介。自然災害が頻発する中、この記憶を風化させず、教訓を生かし、さらに防災意識を高めることが大切です。(編集担当)



しやしん・せつめい

- ② 9月12日長良川右岸(安八町)堤防欠壊
- ③ 長良川堤防決壊により水没した安八町の家屋
- ④ 岐阜市石ヶ谷二田子の山地の崩壊は家屋を全壊し、幼い命(小学3年の男子)を奪った

岐阜県の林業		昭和34年1月15日第三種郵便物認可	
(表-1)		災害対比表	
被 害 額		伊 勢 湾 台 風	9 . 1 2 豪 雨
被 害 区 分		49,516,487千円	103,924,157千円
林 野	地	714箇所	698,454
林	道	530 "	189,516
治	山	—	—
林	産 物 等	3,444,922	1,007,359
害	計	4,332,892	11,524,309



開催日	行事名等	内 容 等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場 所 申込(問合せ)先/TEL
10月1日(木)~ 10月2日(金)	機械集材装置運転業務 特別教育	● 講習時間：1日 学科 8:50~16:10 2日 実技 8:30~17:40 ● 申 込：開催日の10日前まで ● 受講料：22,000円(本代含む)(振込み) ● 定 員：30名(定員になり次第締め切ります。)	1日(学科) ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) 2日(実技) 美濃市皆代地内(予定) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
10月7日(水)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	● 講習時間：学科 9:00~15:20 実技 15:30~16:30 ● 申 込：開催日の10日前まで ● 受講料：12,100円(本代含む)(振込み) ● 定 員：30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
10月27日(火)~ 10月28日(水)	簡易架線集材等機械の 運転業務特別教育	● 講習時間：27日 学科 8:50~16:00 28日 実技 8:30~17:30 ● 申 込：開催日の20日前まで ● 受講料：61,160円(本代含む)(振込み) ● 定 員：30名(定員になり次第締め切ります。学科及び実技一部免除者を含む。実技講習は10名単位の開催となりますので実技受講者が20名以上の場合は翌日になりますのでお問合せ下さい。)	27日(学科) ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) 28日(実技) 中濃地内山林(予定) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

【健康は日々の積み重ね】

ある時、自分が毎日どれくらいカロリーを摂取しているのか気になり、携帯アプリで記録を始めてみました。すると、思っていたより摂取カロリーが多く、その原因の一つが何気なくつまんでいたお菓子でした。

それまでは、「運動さえしていれば大丈夫」と思い込んでいました。しかし実際には、運動だけでなく食事とのバランスも欠かせないことを実感しました。正直なところ、運動量を増やすより、お菓子を一つ減らす方がずっと楽でした。食事を見直し、無理のない範囲で運動を続けるうちに、寝つきが良くなり、食事もおいしく感じられるように。不思議と気持ちにも余裕が生まれました。

健康は特別な努力の先に突然訪れるものではなく、毎日の小さな積み重ねの中にあるのだと思います。食事と運動のバランスを少し意識すること。それが毎日を豊かに過ごす秘訣なのだと改めて気付きました。

「森林のたより」編集委員 森林活用推進課 畑中 慎

10月号予定

イベント情報

連載

● 山の歳時記(254)

清流と森と親しむ

● 森林と人を活かす知恵(165)

木と親しむ

● 岐阜県の公共木造建築(161)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

● 研究・普及コーナー

市況情報

その他

10月1日
発行

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所
単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1904回 岐阜共販所 7月14日	すぎ	3 m	16~18cm	14,600	—	→
		4 m	16~18cm	13,500	—	→
			20~22cm	14,500	—	→
			24~28cm	14,300	—	→
			30cm以上	13,000	14,600	→
	ひのき	3 m	16~18cm	19,500	—	↘
			20cm以上	18,000	61,600	↘
		4 m	16~22cm	20,000	—	→
			24~28cm	19,000	—	→
			30cm以上	18,000	40,000	→
		6 m	16~18cm	—	—	→
第1508回 飛騨共販所 7月22日	すぎ	3 m	16~22cm	14,700	—	→
		4 m	24~28cm	14,800	—	→
			30cm以上	14,000	—	→
	ひのき	3 m	16~18cm	19,900	—	↘
		4 m	20~22cm	19,200	—	↘
			24~28cm	19,200	—	↘
			30cm以上	19,000	37,700	↘
		6 m	16~20cm	—	—	↘
	ひめこ	4 m	24~28cm	12,000	—	↘
			30cm以上	13,000	—	↘
		5 m	40cm以上	—	—	↘
	くり	4 m	24cm以上	14,000	—	→
第1842回 東濃共販所 7月23日	すぎ	3 m	16~22cm	14,000	—	→
		4 m	24~28cm	14,500	—	→
			30cm以上元	15,000	—	→
	ひのき	3 m	16~22cm	19,500	27,000	→
			24~28cm	19,500	29,000	→
			30cm以上元	28,000	59,000	→
		4 m	13cm以下	12,000	—	→
			16~22cm	19,600	—	→
			24~28cm	19,500	26,000	→
			30cm以上元	29,000	69,000	↗
		6 m	18~22cm	29,500	—	→
	まつ	4 m	30cm以上元	—	—	→

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回事との比較。

【商況】

スギ4m元木・尺上良材は出材が少なく、入札は平常で価格は保合。スギラミナ向け3m・4m材は強含みで推移している。ヒノキ元木良材4mは出材が少ないものの、入札は平常。ヒノキ3m・4m構造材は弱含み。合板向けは価格保合ながら納材は順調。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材に原木不足感が強く、需要は高い。(岐阜)

スギはA材が安定して推移している一方、B材は出荷の鈍化が引き続いている。ヒノキは全体的に弱含みで、やや落ち着いた動きとなっている。広葉樹は概ね安定しているものの、猛暑の影響により若干弱含み傾向がみられる。12月初旬には広葉樹祭りを控えているため、良質材の出荷予定がある方には準備をお願いしたい。高値は、ナラ2.3m×40cm@42,200円、クリ2.1m×40cm@43,000円、サクラ2.2m×30cm@30,000円、ヒノキ4.0m×36cm@37,700円。(飛騨)

スギ・ヒノキの並材は出材量が減少したものの、両樹種ともに良材の取引が堅調で、市場全体を支える展開となり、全体としては活気が感じられた。ヒノキは、4m元木・中目良材が保合で推移。3mの元木尺上材・柱役物材、中目材は引き合いが強く保合を維持している。一方で、構造材向けの並材は3m・4mともに弱保合で推移。2mの尺上良材は保合を維持した一方、20cm以下の材は引き合いが弱く弱含み。スギは、4m元木・中目良材が引き合い好調で強保合を維持。4m(24cm以上)構造材、3m材中目材も品薄感が強く、相場は強保合で推移。合板向けは価格は保合、納材は順調。ラミナ向けも価格は横ばいで推移しているが、今後の動向には注視が必要。(東濃)

製品卸売標準価格 (7月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	68,000	(2,249)	→
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	(662)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	76,000	(3,352)	→
	柱	3000	120	120	特等	75,000	(3,240)	→
		6000	120	120	特等	155,000	(13,392)	→
W集 ウ成 ッド材	柱	3000	105	105	国産5層	91,000	(3,000)	→
		3000	120	120	国産5層	93,000	(4,000)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (7月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	450	→
	コースト(目荒)	442	→
米楡	ヘム(アラスカ産)	486	↑
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに? ~木材用語~

パッシブハウス

自然の風や太陽光、地熱などの自然エネルギーを最大限に活用するように設計された住宅のこと。一般に、機械設備に頼らず、設計手法で省エネを実現する住宅を指すことが多い。ドイツが先行しており、その基準を導入した住宅が、日本でも建築されるようになった。ドイツの規格では、床面積あたりの一次エネルギー消費量及び冷・暖房負荷、そして気密性能の基準を満たす必要がある。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典